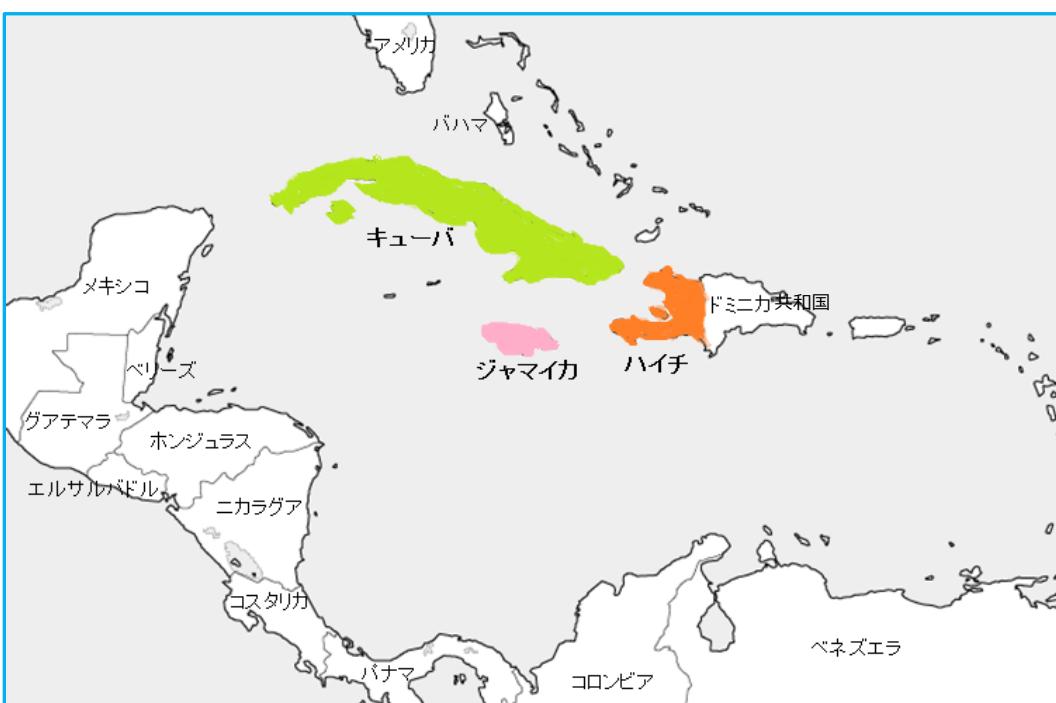


【活動のご報告】

ハリケーン・サンディによる被害に対する支援 (カリブ海沿岸諸国)



1. ハイチ共和国

ハイチ共和国

- 首都： ポルトープランス
- 言語：フランス語、クレオール語（共に公用語）
- 人口： 約 1013.5 万人（2012 年：ECLAC）
- 面積： 2 万 7750 平方キロメートル（北海道の約 1/3 程度の面積）
- 宗教：キリスト教（カトリック、プロテstant等）、ブードゥー教等



■ハイチの概要



水由来の感染症を防ぐために塩素剤と石鹼を配布

ハイチでは 2010 年 1 月 12 日に、首都ポルトープランス郊外を震源とするマグニチュード 7.0 の大規模な地震が発生。死者約 31 万人、被災者約 370 万人、同国 GDP の約 120% に相当する約 78 億ドルの損失を被りました。また、同年 10 月にはコレラが発生、感染はハイチ全土へ広がり、死者は 7000 人以上に上りました（2012 年 8 月現在）。

ハイチ経済は、農業依存型の脆弱な体質に加え、国内の政情不安などにより厳しい状況が続いている、西半球の最貧国となっています。

■ハリケーン・サンディ被害の概要（ハイチ）

- 上陸・通過時期： 2012 年 10 月 24 日～27 日
- 被害地域： 全土
- 被災者： 約 200 万人
- 死者： 54 人
- 行方不明者： 21 人
- 負傷者： 20 人
- 全壊家屋： 約 7000 戸
- 損壊家屋： 約 2 万 4000 戸
- 浸水家屋： 約 9000 戸



洪水の状況を確認するハイチ赤十字社

ハイチでは、2012年8月末に熱帯低気圧アイザックが西部および南東地方を直撃。2010年のハイチ大地震の復興途上にあった首都ポルトーフランスなどでは道路の冠水、停電など大きな被害を受けました。

そこに追い打ちをかけるように、2012年10月24日にハリケーン・サンディが通過。27日まで全土で豪雨が続き、多大な被害をもたらしました。ハイチ政府は、2013年1月5日まで国家非常事態を宣言。死傷者のか、家屋の損壊や浸水、また水源および上水道施設が破壊されたことにより、以前からまん延が続いているコレラもさらに拡大し、新たに3593人が感染しました。多数のコレラ治療施設も破壊されました。

これらの相次ぐ自然災害の影響で、被害の深刻な地域においては栄養不良児が増加。2013年2月から6月の乾期には、一部地域で物価上昇のため食糧を購入できない人々が多数発生し、家財や家畜を売り払うケースもみられました。

■国際赤十字の支援

【緊急救援】

ハリケーン・サンディの接近に備え、ハイチ赤十字社は、国際赤十字と連携しながら、24時間体制で緊急対応センターを開設。2,887人のボランティアおよび38人の「こころのケア」を行うボランティアを13支部に配置しました。また、高齢者、障害のある人々を安全な場所にあるキャンプに優先して避難させるなどの活動も積極的に展開しました。

＜赤十字の支援＞

世帯への支援	世帯数
住居を失った家族への現金支給(被災直後)	761
全・半壊住宅再建支援(現金支給ほか)	1,868
生計支援(農業)→種子、農具の配布	1,800
生活支援(漁業)→現金支給	496
生活支援(現金収入向上プログラム)	790人

2013年12月23日現在

被災直後には、食糧などの救援物資を支給するとともに、社会的に弱い立場にある母子世帯など761世帯に100米ドルを支給。子どもの学費や家屋の修復などに活用されました。

【復興支援】

・住宅再建支援

復興期には、家屋の被害の程度に応じて、1,868世帯に住宅再建のための現金支給を行いました。緊急救援期に現金支給を受けた母子家庭などもここに含まれます。

また、これに加えて、地元の建設業者に対して災害に強い家作りのための技術的なトレーニングを行い、被災者の住宅再建をより安全なものとすると同時に、地域内



地域文化や地元で手に入る材料を作り、地元の建設業者が災害に強いモデルハウスを建築しました

の収入向上にもつながりました。

- 生計再建支援

生計の再建支援として、1800 世帯の農家に種子や農業機材を配布しました。また、496 世帯の漁業関係者に漁業資材購入などのための現金支給を行いました。

また、被災者の現金収入を生むために、インフラ再建等の労働の対価として現金を支給するプログラムを 790 人の被災者を対象に実施。被災者はここで得た収入を、食糧の購入、ローンの返済、学費、起業のための資金などに充てています。



©IFRC

収入向上と栄養改善のためにカリフラワーの種子を配布しました。芽が出始めてきたところです。

- その他

111 人のボランティアに対して、住宅や給水、衛生についての防災トレーニングを実施しました。トレーニング参加者は、被災後の住居が衛生的に保たれているか等、家庭訪問を行って話を聞きながら、必要な指導を行いました。

また、ハリケーンで破壊されたコレラ治療施設を約 1 年かけ修繕。コレラなどの感染症を防ぐためにボランティアのトレーニングを行い、2 万 5000 人を対象としたキャンペーンを実施しました。

■日本赤十字社の支援

- 2000 万円の資金援助

ハイチにおけるハリケーン・サンディの被害に対して、国際赤十字・赤新月社連盟の支援要請（緊急アピール）に対して、約 2000 万円の資金援助を行いました。

日本赤十字社（以下、「日赤」）は、2010 年 1 月 12 日に発生したハイチ大地震以降、様々な支援活動を行っています。レオガンではトイレの普及や衛生知識の普及等の保健/給水・衛生事業を実施してきました。

ハリケーン・サンディは、レオガンも直撃し、激しい暴風雨による洪水や土砂崩れで、家屋の倒壊や浸水など甚大な被害を与えました。汚染水が起因とみられるコレラや下痢症疾患も増加。

日赤看護師とハイチ赤スタッフは事業地での被害状況を調査。のべ 9047 世帯を対象に、浄水剤 51 万 9960 錠と石けん 1411 個の配布。また、コレラと衛生管理に関する情報提供セッション 80 回を開催し、コレラや水を媒体とする感染症の予防に貢献しました。

2.キューバ共和国

キューバ共和国

- 首都： ハバナ
- 言語： スペイン語
- 人口： 約 1116 万人（2012 年：国家統計局）
- 面積： 10 万 9884 平方キロメートル（本州の約半分）
- 宗教： 宗教は原則として自由



■キューバの概要



家屋修理のために何が必要か調査を行うボランティア

アメリカのフロリダ半島から 150 キロメートル南に位置するキューバ共和国は、日本の本州約半分の面積、人口は 1,100 万人の島国です。気候は亜熱帯で 1 年中温暖。住民はスペイン系の白人、黒人系、混血、東洋系等多様な人種が混在しています。

主な産業は、観光業、農林水産業（砂糖、タバコ、魚介類）、鉱業（石油等）、医療・バイオ産業、一人あたりの GDP は 6,135 ペソ

(2011:国家統計局、約 2 万 7000 円)。医療・教育費はすべて無償、識字率は 98% と非常に高いものになっています。

■キューバ ハリケーン・サンディ被害の概要

- 上陸・通過時期： 2012 年 10 月 25 日
- 被害地域： 南東（サンティアゴ・デ・クーバ州）および北部（オルギン、グアンタナモ州）、その他地域でも、強風、洪水などが発生
- 被災者： 約 100 万人
- 死 者： 11 人
- 損壊家屋： 約 19 万戸
- 全壊家屋： 約 3 万戸

2012 年 10 月 25 日、ハリケーン・サンディが南東（サンティアゴ・デ・クーバ州）および北部（オルギン、グアンタナモ州）に上陸、通過。その他地域でも、強風、洪水などが発生。総避難民数は約 34 万人に達しました。ちょうど収穫前であった農地は強風で浸水し、収穫に壊滅的な打撃を受けました。観光産業とともに基幹産業である農業、食品産業への多大な被害により、キューバ経済は大きく減退しました。

■国際赤十字の支援



イアーゴ・デ・クーバ湾入り口の漁村。キューバ赤十字社が最初に救援を行った村の1つ。

【緊急救援】

被災後キューバ赤十字社は、直ちにキューバ政府と連携し、特に被害の大きかったサンティアゴ・デ・クーバ州、オルギン州、グアンタナモ州の約1万1千世帯(約2万8000人)に衛生キット、調理器具、蚊帳、水用タンク、バケツ、防水シート、住居の緊急補修セットを配布しました。

また、汚染水による感染症や動物由来感染症を防ぐため、サンティアゴ州、カマグエイ州、グランマ州、ビジャ・クララ州、グアンタナモ州、マケベケ州

に保健所を通じ、各世帯に塩素消毒錠剤を配布しました。また、汚染水が混入した浄水場に浄水処理を専門とするボランティアを派遣し、浄水場再開のための作業を行いました。

・ 住宅再建支援

屋根を吹き飛ばされるなどの被害を受けた住宅の屋根などの応急処置および補修のため、約5000世帯への支援として、8028枚のビニールシート、屋根修復のための工具セット3511セットを配布し、修復方法を指導しました。

・ 保健衛生

衛生指導を行うボランティアが約1万1000世帯を家庭訪問し、非衛生的な水をどのように処理し消毒し利用するかについて説明を行いました。

■日本赤十字社の支援

・ 2000万円の資金援助

キューバにおけるハリケーン・サンディの被害に対して、国際赤十字・赤新月社連盟の支援要請(緊急アピール)に対して、約2000万円の資金援助を行いました。

3.ジャマイカ

ジャマイカ

- 首都：キングストン
- 言語：英語、英語系パトゥア語
- 人口：約 276.1 万人（2012 年：ECLAC）
- 面積：2 万 7750 平方キロメートル（北海道の約 1/3 程度の面積）
- 宗教：プロテstant等



■ジャマイカの概要



被災状況を調査し、必要な支援を計画します

ジャマイカ経済は、観光業の他、鉱業（ボーキサイト及びアルミナ）、海外移住者からの送金及び砂糖、バナナ等の伝統的產品の輸出によって支えられています。食料の多く、エネルギーのほとんどを輸入に依存しているため、欧米先進国の景気等の影響を受けやすく、また、頻発する今回のハリケーン・サンディのようなハリケーン等自然災害による被害も多いため、一般的にその経済基盤は脆弱です。しかし、一人当たり GNI は 5140 米ドル（2012 年：世銀）と比較的高く中所得国であり、自他ともに認めるカリブ地域におけるリーダー的存在として、大きな影響を有しています。

■ジャマイカ ハリケーン・サンディ被害の概要

- 上陸・通過時期： 2012 年 10 月 24 日
- 被害地域： 全土
- 被災世帯： 約 1 万 1 千世帯
- 死 者： 1 人
- 農作物の経済的被害 1650 万米ドル

2012 年 10 月 24 日、ハリケーン・サンディはジャマイカ南東に上陸、全土に豪雨と強風をもたらしました。1 人が死亡、負傷者も多数発生しました。西部のポートランド、マウント・プレザント地区では、住居の屋根 80% が損壊。電気、水道が止まり、いくつかの病院も被災、損壊しました。プランテーションの主要農産物であるバナナ、サトウキビの被害総額は約 1650 万ドルとなりました。小規模農家においてもパパイヤ、バナナ、ライムなどの換金作物の収穫ができず、1 年分の収入を失うなど深刻な経済被害をもたらしました。

■国際赤十字の支援

【緊急救援】

ジャマイカ赤十字社は、ハリケーン・サンディ上陸前より災害に備え、備蓄してあった食糧、衛生キット、水用タンク、防水シートを社会的に弱い立場にある世帯に配布しました。また、災害時に迅速に食糧を集めて配給できるよう食品業者と事前に契約していたことから、食品を効率的に調達できました。



サンディ通過後、被災者に支援物資を配給

・救援物資の配布

2013年1月まで、ハリケーン・サンディによる被災が大きかった東部のセント・トマス郡、セント・メアリー郡、ポートランド郡の 6918 世帯に対し、毛布や衛生用品、食糧やマットレスなどの物資の配給支援を行いました。被災者が必要とする物資について調査を重ね、予定していた配給物資から、実際のニーズに合うよう変更も行いました。

また、今後の災害に備えるため、再度、食糧を含む救援物資の備蓄も行いました。

【復興支援】

・生計支援

被災して生計手段を失った223人に対し、農業、雑貨店、家畜、洋裁、大工、食料品店等の小規模起業のためのトレーニングと、少額融資を行い、生計手段の確立を支援しました。

■日本赤十字社の支援

・約360万円の資金援助

ジャマイカにおけるハリケーン・サンディの被害に対して、国際赤十字・赤新月社連盟の支援要請（緊急アピール）に対して、約360万円の資金援助を行いました。

4. 海外救援金の使途

日本赤十字社では、本災害に支援するため「ハリケーン・サンディ救援金（カリブ海沿岸諸国）として、みなさまに海外救援金のご協力をお願いしました。

多くの方々から寄せいただいた約2千万円の救援金は、上記緊急救援活動に活用させていただきました。温かいご支援、誠にありがとうございました。

受付期間： 平成24年11月7日（水）～平成24年12月28日（金）

合計 : 19,765,006 円

収入		支出	
海外救援金	19,765,006円	国際赤十字のアピール対応（※2）	
日本赤十字社活動資金（※1）	23,861,794円	ハイチ	20,000,000円
		キューバ	20,000,000円
		ジャマイカ	3,626,800円
合計	43,626,800円	合計	43,626,800円

※1：NHK 海外たすけあい募金を財源とする、日本赤十字社の緊急対応用の財源

※2：国際赤十字・赤新月社連盟の支援要請（アピール）への資金援助

日本赤十字社によるその他のハリケーン サンディへの活動や、国際支援活動に関する情報は日本赤十字社ホームページをご覧ください（<http://www.jrc.or.jp>）